

CLIPPEDIMAGE= JP404190719A ✓  
PAT-NO: JP404190719A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04190719 A  
TITLE: PRESSURIZED FLOWER VESSEL

PUBN-DATE: July 9, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
SEKIBA, JUN

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SEKIBA JUN	N/A

APPL-NO: JP02320090  
APPL-DATE: November 24, 1990

INT-CL (IPC): A01G005/06; B65D051/24 ; B65D053/00 ; B65D081/22 ;  
B65D085/00  
; B65D085/50  
US-CL-CURRENT: 47/41.15

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain the subject vessel having excellent effect to promote the blooming and prolong the life of a cut flower by sealing the stalk of a flower tree and the vessel with a ring-shaped rubber tube, pressurizing an absorption liquid and supplying the pressurized water to the cut end of the cut flower.

CONSTITUTION: A rubber tube 6 is inserted into a vessel 5 in a state to expose a water-pouring port 7 out of the vessel, the cut end 2 of the stalk or branch 1 of a flower is inserted into the vessel through the rubber tube, a liquid 8 is introduced into the tube 6 from a pouring port 7 to expand the rubber tube 6 and seal the inner wall of the vessel 5 and the stalk or branch 1 with the tube and pressurized water is further introduced into the tube to pressurize the absorption liquid 3 and effect the absorption of the liquid from the cut end 2 of the flower.

## ⑫ 公開特許公報(A) 平4-190719

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

A 01 G 5/06  
B 65 D 51/24  
53/00  
81/22  
85/00  
85/50

識別記号

庁内整理番号

J 8502-2B  
Z 2330-3E  
Z 2330-3E  
Z 7191-3E  
G 8921-3E  
G 8921-3E

④ 公開 平成4年(1992)7月9日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全3頁)

⑬ 発明の名称 加圧式花卉容器

⑭ 特 願 平2-320090

⑮ 出 願 平2(1990)11月24日

⑯ 発 明 者 関 場 純 大阪府枚方市藤阪西町2-11-103

⑰ 出 願 人 関 場 純 大阪府枚方市藤阪西町2-11-103

## 明 細 書

## 1. 発 明 の 名 称 加圧式花卉容器

## 2. 特許請求の範囲

1. 注水口(7)を外側に設け、内側に任意の断面形状を有する浮輪状ゴムチューブ(6)を取付けた開孔部を有する加圧式花卉容器。

2. 容器の開孔部と花卉の茎、枝(1)をシール剤(9)で密封する事を特徴とする逆流防止付注水口(8)を有する加圧式花卉容器。

3. 逆流防止付注水口(8)がゴム栓より成る特許請求の範囲2記載の加圧式花卉容器。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、切花の給水を自家吸水に任せるのではなく、切口に加圧水を供給する事により、水吸上げを強制せしめる容器に関するものである。

(従来技術)

従来、切花の切り口に何らかの処置をして水吸上げをよくする方法は提供されているが、花容器

の方は、自然圧の給水のみで、切花の自家吸水にたよっているのが現状で、切口に加圧水を供給して、早く咲かせたり、寿命を延ばす等の方法は提供されていなかった。

また、香水を吸水液に使用して、香りのない切花に吸水作用を利用して、匂いのある切花にする方法もなかった。

(発明が解決しようとする課題)

切花の切口に加圧水を供給するには、草花・花木の茎の形状、太さが千差万別であるので、これに順応する水封方法の問題と花容器内吸水液の加圧方法が、問題点で、解決すべき課題となります。

(課題を解決するための手段)

耐圧容器内に吸水液と浮輪状ゴムチューブを入れておき、ゴムチューブの注水口を容器の壁と密着シールされる様にして容器の外に出しておく。花本の茎・枝の切口を容器の上穴から差し込み吸水液内に挿入して、ゴムチューブの注水口より、加圧水を注入すると、ゴムチューブは膨張し、内側は小さくなって、茎・枝の形状に沿う様に包み

込み隙間がなくなって内圧がかかっても、洩れがない程度にシールされます。同時に外側も容器の内壁形状に沿って膨らみ、シールされます。更に加圧水が注入されますと、ゴムチューブは下方に膨張し、密封容器内の空気と吸水液が加圧状態となり、茎・枝の切口に吸水液が加圧注液される事になります。仮に茎・枝の替りにストローを入れたとすると、ストロー内を吸水液が通って上部へ排出される事になります。本発明はこの原理を切花の水吸上げ強制に応用したものです。

#### (作用)

容器内に入れた吸水液は、水・栄養液・色水・香水等植物体の茎や枝を通過する液なら何でもよく、またゴムチューブ内に注入する液は水に限らず、各種液体または空気等の気体でも可能となる。ゴムチューブが接触する容器内壁や、茎・枝にシールを強化する様にシール材やシール液を付け加える事も可能である。ゴムチューブ内に加圧水が注入され膨張してシールが完成した時点から、ゴムチューブの膨張に伴って内圧が高まり、加圧

されると同時に、注水口7を閉じる事により、圧力が保持され、吸水液の減少に伴って圧力が徐々に減じる事になりますが、ある程度の期間は加圧状態が維持されます。ゴムチューブの断面形状はリング状、四角リング状など任意形状が可能です。

第3図は、簡易形状の実施例であり、シール密着されたゴム栓10が付いている容器5に吸水液3を入れ、差し込み口から花木の茎・枝を挿入し、差し込み口と茎・枝の隙間をシール剤にて密着シールする。シール剤としては、反応硬化型シール剤や接着剤等が用いられる。ゴム栓10に注射針を差し込み、注射器や空気ポンプ等で、水または空気を適量注入して加圧状態とし、注射針を抜き取ると、ゴム栓10の針穴はテニスボール等のゴム栓と同様にゴム力によって閉じシールされ、吸水液3は加圧維持される。ゴム栓10以外にも逆流防止付注水口であれば何でもよい。また発泡剤の投入による加圧方法も可能である。

吸水液が切口に作用し、自家吸水作用を促進させる様に、強制的に吸水液が注入される作用を有するので、吸水液の水・栄養液・色水・香水等が茎や枝を通して上部に届き、その効果が出る様になります。

#### (実施例)

第1図及び第2図は、本案の1実施例で、第3図は別の実施例を示している。第1図は注水前の状態であり、容器5にゴムチューブ6を注水口7を容器外に出して取付けておき、吸水液3を適量入れておく。花木の茎・枝の切口2を容器5に差し入れた状態を示しています。第2図は、第1図の注水口7に注水液を注入して加圧された状態で、茎や枝はゴムチューブ6の内側に沿って保持及びシールされ、容器5の内壁はゴムチューブの外側が膨張して内壁に沿って密着シールされます。シールが完成した後、更に加圧注水するとゴムチューブは下方に膨張し、容器内の空気4、吸水液5が加圧され、切口2から加圧された液が吸水される事になります。注水量に応じて、圧力が調節

#### (発明の効果)

この発明により花卉の切花に加圧吸水液を一定期間作用させる事が可能となり、吸水液を水・栄養水とした場合は、開花促進や、花の寿命を延長する効果が出ると共に、水吸上げの悪い花卉を、切花として使用できる様になる効果を持つ。また吸水液を色水にすると、色水が花まで達し、変わった色の花が鑑賞される事になり、香水を使用すると、匂いのない花に香りを付ける事も可能となる。これらの現象は理科の実験等で知られており、テスト結果でも効果が出ております。切花の輸入や移送商品が増加している現在、切花の寿命を延ばす技術は有用ですし、水の補給や取替えなしで、鑑賞用切花を保水する事は、商業上の効果も大きい。また子供の切花実験、観察用として使用でき、教育効果もあると考えます。

#### 4. 図面の簡単な説明

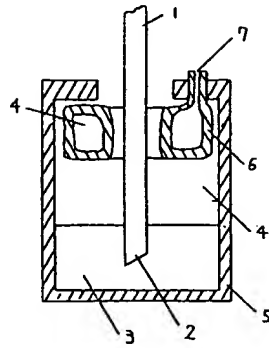
第1図および第2図は本発明の実施例を示す断面図で第1図は作用前、第2図は作用後を表わしている。

第3図は本発明の別の実施例を示す断面図。

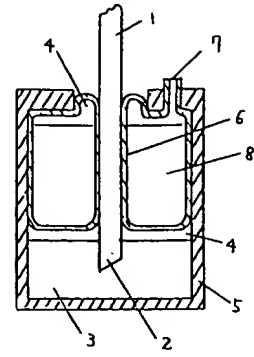
- 1 — 花卉の茎、枝
- 3 — 吸水液
- 5 — 容器
- 6 — ゴムチューブ
- 8 — 水
- 9 — シール剤
- 10 — ゴム栓

特許出願人 関 場 純

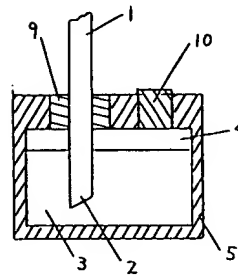
第1図



第2図



第3図



- 1. 花卉の茎、枝
- 2. 切口
- 3. 吸水液
- 4. 空気
- 5. 容器
- 6. ゴムチューブ
- 7. 注水口
- 8. 水
- 9. シール剤
- 10. ゴム栓  
(逆流防止付注入口)